



若竹だよい

277



【巻頭言】

脱皮の月

—私が私に在るための学園—

園長 野田大燈

「会うは別れの始めなり」と言う言葉があります。先月末には恒例の園生全員でお別れ旅行に行きましたが、若竹学園にとりまして正に三月は別れの月です。

若竹学園に自ら希望して来た児童は一人もいません。

夫々がそれぞれの事情を抱えて入所してきているのです。

入所して来る前には「若竹学園と言う所はどんな学園なのだろうか。イジメる嫌な奴はいないだろうか…。先生はどのような先生だろうか…？」と考えると不安で眠れなかった児童もいたでしょう。

それは決して児童のみならず、就職や職場転勤の大人たちも同じだと思えます。ましてや年端もいかない児童が、住み慣れた我が家から海拔 400 ㍎もある山の中の学園に連れて来られたら不安に感じるのは当然でしょう。

私たちは学園を「家庭」だと思っています。だから初めて入所して来る児童を迎える日は、特別な用事で参加できない児童以外全員で玄関で迎え、家族を代表して児童が花束を渡し、拍手で迎えます。

これですべての不安が解消されるわけではないでしょうが、自分が拒否されているか暖かく迎え入れてくれているかは分かります。

私たち職員は新しく入所して来てくれた児童が安心して学園を受け入れてくれたか否かに神経を集中しています。

若竹学園には児童精神科医や看護師、臨床心理士、そして保育士や生活指導員の専門家が配属されていて、24 時間児童の生活を支援し、地元市立小学・中学の先生が校舎で学習を見て下さっています。

新しく入所して来た児童も時間の経過とともに生活と人間関係に慣れて来て来ます。

慣れてくると、今まで押し込めていた我や我儘な部分が徐々に出てきて口論やケンカが始まります。

これからが職員の専門性を問われるところであり、腕の見せ所なのです。

仲間同士でぶつかり合うことで人間関係の『間合い』を学んでゆくのです。

人間関係が親しくなり過ぎて間合いが近過ぎると衝突が起きてイザコザとなります。

また反対に間合いが遠過ると意思疎通が難しくなって仲間外れになってしまいます。

人間界に取って最も必要なのは正に『人間』の間合いなのです。

人と人との間合いなのです。この間合いの取り方は集団生活から学ぶものなのです。

そして三月、別れの月となります。児童たちは入所時の自分を脱皮して、そして本物の「自分」になるのです。

今までに幾人の児童たちが巣立って行ったでしょう。そして今年も…。

—了—

お別れ旅行

2 月 23~24 日

今年もみんなで 1 泊のお別れ旅行に行ってきました。

1 日目は大阪、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンです。毎年恒例ではありませんが、行くたびに新しいアトラクションやイベントが行われています。



お別れ旅行で一番楽しかったことは、USJ です。期間限定のアトラクションに友達と乗ったことや見たことです。(中 3 男子)

モンハンของเกมで限定の缶バッジを手に入れるために十二分間で敵をたおしたらもらえるゲームで、(缶バッジが)二個も手に入った。(中 1 男児)

ぼくは、進撃の巨人ザ・リアルを、見て、楽しかったです。次も見にいきたいです。(小 5 男子)

お別れ旅行で、ユニバに行って、去年乗れなかったアトラクションに乗れて楽しかったです。(中 3 女子)

ぼくは、USJ のジョーズがおもしろかったです。(小 5 男子)

夕方まで楽しく遊んで、ホテルにチェックインしました。夕食、朝食ともにバイキングで、食べたことが無い料理を沢山食べました。



2 日目、ショーケースに入っていてよく見かける食品サンプルを作る工場へ行きました。



ひとり 2 個ずつたこ焼きを作ります。焦げ目をつける工夫をして蠟を流し込みます。固まるのを待つ間、海苔をハサミで切り、固まった物にトッピングをしたりと細かい作業をがんばりました。

私が、お別れ旅行で一番心に残った出来事は、食品サンプルでたこ焼きを作った事です。初めてサンプルを作ったけど、うまく作れました。楽しく作る事が出来て、よかったです。(小 6 女子)

食品サンプルでたこやきのサンプルを作れて楽しかったです。めったにできないことなので、良い思い出になったと思います。(小 4 女子)

そこから兵庫県に移動してお昼過ぎ、神戸どうぶつ王国に到着しました。餌をあげたり撫でたりできるエリアが多く、嬉しそうでした。



どうぶつ王国で、心に残ったのはドッグショーです。羊をうごかしたりフリスビーをとったり、とってもすごかったです。(中 3 女子)

一通りの日程を終え、夕食を食べて学園に帰ってきました。楽しく過ごせた 2 日間でした。

3 月 青峰・若竹学級だよ

テストで学習の総仕上げ

2 月 15 日 (水) に中学生は「学習の診断」テストを行いました。1 年生にとっては初めての経験です。定期テストとは一味違った問題に苦労しながらも、最後まで粘り強く問題に向かう姿に成長を感じました。



また、2 月 20 日 (月) ~ 22 日 (水) の 3 日間、学年末テストが行われました。中学生は 9 教科、小学生は 4 教科のテストを実施し、1 年間学習した成果を発揮しようと集中して取り組むことができました。

それぞれの進路に向かって

中学 3 年生はそれぞれの進路に向かって新たな一歩を踏み出そうとしています。

今まで積み重ねてきた成果を発揮すべく、学習した内容を念入りに復習したり、面接に向け実践的な練習をしたりして準備をすすめてきました。

「受験は団体戦」を合言葉に全体で学習する雰囲気をつくり、切磋琢磨しながら努力を続けてきました。

実際の入試では緊張もしたようですが、持てる力を発揮し、得られた自信は大きなものとなりました。入試はまだまだ続きますので、最後まで気を抜かず全員で向かっていこうと頑張っています。

また、中学 3 年生の頑張っている姿が中学 1・2 年生や小学生の刺激になったようで、高校のパ

ンフレットを見たり、先輩や教師に進路に関する質問をしたりしていました。

まだまだ寒い日は続きます

暦の上では春になってきていますが、学園周辺では冷え込むことが多く、雪化粧していることもあります。気温が氷点下になるようなときでも子どもたちは元気にドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたりして外で遊ぶことが、健康な体づくりにつながり、大きく体調を崩す生徒はほとんどいませんでした。



小・中合同で学習しました

いつもはそれぞれの教室で学習している小学生と中学生ですが、総合学習の一環として働くことの意義や助け合うことの大切さを同じ教室で学びました。中学生の真摯な姿勢を見て小学生も刺激を受けたようです。



このような合同授業を年間数回行っています。この取り組みにより中学校入学時のいわゆる「中一ギャップ」を緩和することにもつながると考えています。



2 月 26 日、小春日和の暖かな日に、NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク主催のおもてなし遍路道ウォークに参加しました。

学園は白峯寺から根香寺までを担当し、10 時に白峯寺を出発しました。日頃のウォーキングやウォークラリーで歩き慣れた道だったので、1 時間半ほどで完歩しました。



完歩した後は、園長先生が作ってくださった打ち込みうどんを食べました。

歩いたあとのうどんがおいしかったです。

(中 3 男子)



私は、遍路道ウォークに参加して、お遍路さんの気持ちを味わうことができました。八十八か所に比べれば、とても短い区間だったけれど、仲間と励まし合いながら歩き、たくさんのお話を学ぶことができました。

(中 3 女子)

～御寄附ありがとうございました～

発電機付き自転車

大阪樟蔭女子大学 教授 石蔵 文信 様

匿名

現金 10 万円

2 月行事

3 日 節分

14 日 バレンタインデー

23-24 日 お別れ旅行

26 日 一日一斉おもてなし遍路道ウォーク

在籍人数 平成 29 年 2 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	3	2	5
	中学生	8	5	13
	その他	0	0	0
	計	11	7	18
女 子	小学生	2	0	2
	中学生	6	2	8
	その他	0	0	0
	計	8	2	10
合計		19	9	28

編集後記

今年も楽しくお別れ旅行に行ってきました。一番人気はやはり USJ ですが、食品サンプル工場やどうぶつ王国も楽しかったようです。お別れ旅行が終わると、いよいよ卒園式です。

(児童指導員 吉田 加世)

第 277 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

E メール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈